

平成31年度第1回
長柄町総合教育会議 会議録



長 柄 町

平成31年度第1回長柄町総合教育会議 会議録

1. 日 時 平成31年4月24日(水)
開会 13時30分 閉会 14時20分
2. 場 所 長柄町役場 2階 庁議室
3. 出席者 長柄町 町長 清田 勝利
長柄町教育委員会 職務代理者 高橋 智恵子
教育委員 窪木 尚
教育委員 篠田 孝行
教育長 石川 和之

(事務局)

副町長	田中 武典
総務課長	蒔田 功
学校教育課長(給食センター所長)	豊田 武文
生涯学習課長(公民館長)	松本 昌久
総務課主査(行政管財係長)	関 英司
学校教育課主査(学校教育係長)	牧野 正幸
生涯学習課主査(生涯学習課係長)	斉藤 和之
書記 総務課主事	白井 雄大

欠席者 長柄町教育委員会 教育委員 加藤 士朗

4. 協議事項 (1) 近年の出生状況と今後の小学校の在り方について
(2) 公民館建設事業の経過と今後の事業計画について
5. 傍聴人 無し

(13時30分 開会)

町長あいさつ

議長選出 総合教育会議設置要綱第4条第1項により、町長が議長となる。

協議事項1 近年の出生状況と今後の小学校の在り方について

牧野主査：協議事項について説明

清田町長：今後、子供が減少してくるという見方であると説明があったが、

委員の皆様の現時点でのお考えについて意見を頂戴したい。

高橋委員：一点質問したい。世帯数は増加しているが、人口は減少しているというのはどのような理由が挙げられるか。

蒔田課長：20年ほど前からこういった現象が見られるようになった。以前は祖父母と同居することが普通で、現在は世帯が細分化されたことが要因になっていると考える。

清田町長：戸数はどうなっているか。

蒔田課長：最近は減っている。

篠田委員：先ほどの年齢別分布について説明を受け、厳しい現実であると受け止めざるを得ないが、地域の特性等を考え現在の2校体制については非常に有効ではないかと感じている。水上地区における水上小学の閉校に関して地域に与える影響はとても大きかったが、実情を考えればやむを得ない判断であったと考える。しかし地域の学童が減少し、周囲に友達となるべき子どもも減少する中で、子どもたちの世帯だけでも茂原などの都市部へ移住を考え相談されるケースがあった。日吉地区については立烏に団地があり、今後のキーポイントになってくるのではないかと考える。繰り返しになるが、地域における学校の消失というものは地域に与える影響が非常に大きい。今後は日吉、長柄地区をいかに活性化するかを町全体として考えていただきたい。

清田町長：地域において中心となる学校施設の重要性について意見を頂戴した。地域活性化のためにも、町として若い世代の受け入れ施策について検討が必要である。

牧野委員：複式学級の編成時期に関する資料について補足説明

清田町長：豊田学校教育課長へ伺うが、1学級の適正な人数は何人か。

豊田課長：男女10人の20人程度ではないかと考える。

低学年時の男女比はさほど影響がないと考えるが、高学年になった時に体力、体格等の差や生活面で影響が出る可能性がある。適正な人数はあると思うが、教員は多人数、少人数クラスと現場に合った教育方法をとることになる。

清田町長：地域における学校の重要性は認識をしているが、1学級における適正な児童数を維持できなければ教育場にも影響が出てきてしまうという事も考えられる。今後の検討課題である。

篠田委員：年代別の表を見ると、若年層もまだまだ町内にはいるものと把握した。町長の施策にも企業誘致などがあるが、企業の雇用等を考えた場合、若者夫婦が長柄町に定住可能となるような居住

区、施設等のプランはあるのか。

清田町長：他の自治体において、移住定住に関する補助金等の案が出ているところもある。

隣接市に比べると長柄町の地価は安い。都心部への移動時間も車で10分程度の差である。しかしながら、なかなか長柄町へ移住しようという流れにはならないのが実情である。若い世代はマンションなどを好み、周囲にコンビニなどがある立地条件の良い場所を選ぶ。

町としてはこども園や教育現場に関しては手厚く整備していると思う、あとは人口をどう増やすかである。

窪木委員：若者世代の中にはコンビニなどが近くに無いと、といった方も多くいると思うが田舎暮らしにあこがれて物件を探している方が多くいるのも事実である。物件情報の発信を効率よく行うことができれば移住者の増加につながるのではないかと考える。学校の閉鎖等に関する少子化問題は町だけでなく国全体での問題である。隣町との学校統合の話も今後は出てくるのかもしれない。

田中副長：町が行っている物件情報の発信については空家バンクなどが挙げられるが、空き家対策だけでは移住定住に関する施策としては足りていない。

今後は思い切った補助制度の打ち出しが必要ではないかと考える。近隣の町村では道の駅などを中心としたコンパクトシティ作りを目指しているところもあるが、長柄町においては全町的に住んで頂く方に手厚く補助を行っていく方法が適しているのではないかと考えている。

今後は空家バンクを基礎としながら、物件を求めている希望者へいかに物件情報を仲介するなど、移住に関する相談窓口の強化を進めていきたいと考えているところである。

窪木委員：若者が思っている長柄町のイメージの払拭が必要になってくると考える。

学校においてはどこまで統合、複式学級の編成を我慢できるのか、子どもたちの適切な教育の場を維持できるかが課題となると考える。長南町等の先進事例のメリット・デメリットを伺うなどして、今後の取り組みに生かしてもらいたい。

清田町長：今後は学校の問題としてではなく、町、国としての問題となってくる。教育の現場作りはまちづくりと同じく重要な課題とし

て捉えていく必要があると考える。本議案については町の方でお預かりさせていただき、行政の枠組みの中に反映させていただく。

協議事項2 公民館建設事業の経過と今後の事業計画について

松本課長：協議事項について説明

篠田委員：公民館は地域文化の拠点であるが、老朽化に伴う運営への支障が多くみられる。公民館建設の進捗状況についてお伺いするが、公民館建設検討委員会が開催され、議会へ答申し、建設される方向で話が進んでいるという事でよろしいか。

田中副長：平成26年度に公民館建設検討委員会を組織し、検討会において現公民館周辺に建設という案が答申され、町長がその意見を尊重し施策を展開してきた。しかし、その後の議会において土地造成費等の補正予算案が出された際に、批判的意見が出た結果、補正予算案が否決された。否決の理由の中に公民館建設予定地が適当であるか否かという意見があり、議会における議決の中で、旧昭栄中跡地への建設が適当であるとの決議がなされた。しかし、その後の具体的計画が議会と執行部での折り合いがつかず3年が経過したというのが現状である。

本案件については、公民館建設検討委員会における住民の声が反映されてしかるべきであると考え、再度町総合計画策定審議会において施策の中で委員の皆様よりご意見を頂戴し、議会全員協議会において建設地を現公民館周辺にするという案を再度協議いただいた。その結果、議会の同意をいただき現公民館位置に建設を予定し施策を展開している。

建設計画に際し、構造物の配置について経済的側面や合理性を考えた上でどの位置に建設するのが最も適しているか判断するために、昨年3月に現予算の一部を使用し最低限のボーリング調査を実施した。そのデータを踏まえどの位置に建設するかを執行部で検討中である。

また、公民館建設検討委員会を公民館建設推進委員会に再編した。検討中の事案に関しては、前述の委員会と議会へ逐一報告しながら配置を決定し、基本設計の検証と必要に応じた修正を行いながら、一度議会において否決されている点を踏まえ丁寧な説明を行っていきながら実施設計を進めていきたいと考えて

いる。

篠田委員：今後、住民へのパブリックコメントは考えているか。

田中副長：十分な説明と配慮を持って進めていきたいと考えている。

篠田委員：住民からの声をしっかりと反映し、議会と委員会とで協議し建設に取り組んで頂きたい。

田中副長：誠心誠意取り組んでいく所存である。

高橋委員：何回か前委員会に出席をしてきたが、実際に使用している方の非常に細かい意見もいただいていた。それが否決という形で計画が止まってしまったことについて町民の落胆は大きい。しかし、こうして再び推進委員会が立ち上がったことについては安堵を覚える。この公民館建設が町おこしの起爆剤の一つとして機能すればと考える。

基本設計については、一からすべて見直しなのか。

田中副長：前回の基本設計をなるべく活用しながら、利用者の貴重な意見ふまえ必要最低限の修正を加えて計画を進めていく。

清田町長：東京五輪の資材高騰前に建設するのが理想であったが、今後の計画については慎重に進めていきたいと考えている。

田中副長：昨年の文化祭の際には、各教室の利用者から新公民館建設について切実な声をいただいたが、町民の中には公民館の建設を軽視する声もある。しかし、公民館という施設は生涯学習の場であり、文字のとおり一生をとおした教育の場であるため、しっかりとカバーしていきたいと考えている。

窪木委員：基本設計を修正しながら進めていく説明があったが、設計業者等の変更はあるのか。

田中副長：現在は方角、配置等の検討段階であり、地盤、地層等の影響によりどの程度変更が生じるか不明である。そのため、どの業者にどのように委託するか、全くの白紙というのが現状であるが、発注に関しては十分に精査したうえで行う予定である。

清田町長：公民館建設について、計画の遅れが生じたことを本当に申し訳なく思う。現在は何とか建設に向けて計画が軌道に乗ったところだが、建設にあたり町民の皆様の意見を頂戴しながら計画を進めていきたいと考えている。

そのほかに意見はあるか。

篠田委員：その他の意見であるが、2点お話ししたい。

まずスクールバスのデザインについて、非常にユニークであり一目でスクールバスとわかるような、大変素晴らしいバスだと

思う。

海外国際交流事業に関して、現場が苦勞しているという話を伺った。中々家庭に浸透していかないという話を聞いたが、魅力ある事業のため町の方からの援助も踏まえ推進していただきたい。

豊田課長：バスの件については今年度から委託を開始した成美交通様の案でラッピングされたものである。

海外国際交流事業については先日係長と説明会を行った際、子どもたちの反応は非常に良好で当初希望者は30名程度であった。しかし、現在のところ応募は2名にとどまっている。理由としては、家庭内の経済事情や、部活動の大会等と日程が重なっていることが考えられる。

清田町長：部活動の大会などの重ならないようにはできないか。

豊田課長：長南中学校との合同での実施になっており、部活動の大会の日程等も踏まえ協議した結果、1週間早めての実施となっている。金、土曜の出発となると費用も高くなってしまいうこともあり、今年度については日程の変更はできない。

清田町長：引き続き、たくさんの生徒が参加できるよう進めてもらいたい。
以上で予定していた議題をすべて終了したので閉会とする。

(14時20分 閉会)